

## 保育士養成の短期大学における実習に向けての初年次教育の取り組み —学生履修状況を踏まえたカリキュラムの構築と学科・科目間連携—

安東 綾子・矢野 洋子

九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2021年5月25日受付、2021年7月13日受理)

### 要 旨

本研究は、保育士を養成する短期大学において、実習にむけての初年次教育の実施内容と実施方法を検討するため、①本学でこれまで初年次教育で行ってきた、1日見学実習の事前指導「子ども健康学演習」、「1日見学実習」、「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習Ⅰ」での学生の取り組み姿勢から学生が抱える問題を整理する。②学生が抱える問題を踏まえ、「保育実習Ⅰ」にむけて、他の科目との関連や取り組みなどを整理する。③教育者、保育者を養成する短期大学での初年次教育の実施内容とその課題から実施方法を検討するという3つの目的で今までの取り組みを報告した。その結果、学生が抱える問題を踏まえ、身だしなみを整える、時間を守るなどの社会人の基礎を提示し、指導を徹底することや、既存の科目指導内容を検討し、基本的な生活技能を取り入れたり、科目間での指導内容について連携を図ったりすることでカリキュラムを大きく変更することなく、初年次教育の実施内容を充実させることができると考えられる。今後は、学生への効果を調べるために、保育実習Ⅰの評価表の実習指導者からの所見から、実施内容の効果や課題点を分析し、さらに保育士養成における初年次教育について検討を行っていききたい。

キーワード：初年次教育 保育実習指導Ⅰ 保育実習Ⅰ カリキュラム 科目間連携

### 1. はじめに

#### 1. 学生が抱える問題と本短期大学の免許・資格取得について

最近、教育者・保育者養成校と実習先との情報共有や実習の巡回指導で学生の状況把握を行っていく中で、今まで当たり前でできていたことが当たり前でできないという状況が生じている。例えば、保育者養成にかかわる保育実習や施設実習においては、基本的な生活を支える生活技能について、床目にそって床を掃くことができない、雑巾がしぼれない、洗濯が干せない、簡単な裁縫に苦手を感じる、簡単な調理ができない等がある。これらは、特に、宿泊を伴う施設実習での情報共有で聞かれ、毎回その改善について議論がなされる。基本的マナーでは、挨拶ができない、敬語が使えない。人間関係では、実習生同士、実習先の教員や保育者との関わり、子どもとうまく関われないなどが挙げられる。河内・小島(2015)は、教員や保育者を目指す学生の約6割が新しい人間関係を構築することに不得意さを感じていると示しており、人間関係の構築力の低下が考えられる<sup>1)</sup>。学力面では、文章が書けない、基本的な漢字が使用できない、誤字が多い、メモが取れないなどが挙げられる。これらは、実習巡回指導で指摘がなされたり、評価表の所見の部分に記載がなされていたりすることがある。佐藤(2020)は、実習日誌の問題点を注意力の欠如、敬語や言葉づかいの変化について示し、年々問題になっていることを指摘している<sup>2)</sup>。

筆者らの短期大学では、幼稚園教諭養成課程と養護教諭養成課程があり、両課程ともに保育士資格を取得することができる。教育の特色として「即戦力になる教育者・保育者を2年間で養成する」を教育方針とし、実践力育成のための実習プログラムの構築を行ってきた<sup>5) 6)</sup>。

#### 2. 初めての实習である「保育実習Ⅰ」にむけての問題

本学では、両課程ともに取得できる保育士資格取得のための「保育実習Ⅰ」が最初の実習として位置づけられている。保育実習実施基準において、保育実習の目標は、「保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらの総合的に実践する応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。」という高い目標が掲げられている。そのため実習指導では、その目標を達成すべく事前事後指導を行っていくことが求められている。上述の目標を踏まえ、短期大学で

は、原則として第2学年以降に設定しなければならない<sup>3)</sup>とあり、幼稚園教諭あるいは、養護教諭の免許と同時に取得する場合には、それらの免許取得にかかわる実習との兼ね合いから、「保育実習Ⅰ」を第1学年終了後すぐに実習をせざるを得ない状況がある。つまり、高校を卒業して1年しかたたない学生を実習に出さなければならない。

また、「保育実習指導Ⅰ」の目標として、厚生労働省の示した「教科目教授内容」には、以下のように示されている。1. 保育実習の意義・目的を理解する、2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする、3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する、4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する、5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にすると示されている<sup>3)</sup>。以上の目標設定から、事前に指導していかなければならない内容も示されているが、内容が多岐にわたり、15コマでは足りないことが予測される。

松田ら(2016)は、保育者養成校の初年次教育に関する先行研究のいずれにおいても、保育者養成校カリキュラムの過密さや授業回数15回確保の問題のために、種々の困難があること、保育者養成校における初年次教育プログラムの開設に際しては独自の工夫が必要であることを強調している<sup>4)</sup>。

### 3. 目的

本学では、初めの実習である「保育実習Ⅰ」の前段階として、初年次教育として、子ども健康学科開設の平成23年から1日見学実習とその事前指導として「子ども健康学演習」を開講して、取り組みを続けてきた。この「子ども健康学演習」や1日見学実習の取り組みについては矢野ら(2018・2019)でも取り上げている<sup>5) 6)</sup>。しかし、この取り組みを継続していく中で、教員が学生でも当たり前に行えるだろうと思っていたことが、できないという状況が浮き彫りになり、実施内容を検討したり、異学年交流や、少人数・レベル別指導、個別指導、外部講師を招聘したりと工夫を行ってきた。そこで、本研究では、①本学でこれまで初年次教育で行ってきた、1日見学実習の事前指導「子ども健康学演習」、「1日見学実習」、「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習Ⅰ」での学生の取り組み姿勢から学生が抱える問題を整理する。②学生が抱える問題を踏まえ、「保育実習Ⅰ」にむけて、他の科目との関連や取り組みなどを整理する。③教育者、保育者を養成する短期大学での初年次教育の実施内容とその課題から実施方法を検討する。以上の目的で今までの取り組みを報告することとする。

## Ⅱ. 初年次教育の取り組みの実際について

### 1. これまでの「保育実習指導Ⅰ」までの取り組みについて(報告)

「子ども健康学演習」の実施から「保育実習Ⅰ」までの指導の流れとその変遷を表1に示す。

#### (1) 平成23年度～平成29年度までの「保育実習Ⅰ」までの取り組みと学生の状況

「子ども健康学演習」では、まず社会人の基礎としての3つの柱として、①身だしなみを整える、②時間や提出期限を守る、③報告・連絡・相談・確認をする、を提示し指導する。講義内容の中心としては、免許・資格取得に向けての実習の流れを確認し、1日見学実習にむけて、保育実習Ⅰと同じような流れで書類の作成や日誌の書き方、事前訪問での打ち合わせが行えるように事前指導を行った。

「保育実習指導Ⅰ」では、1日見学実習を受け事後指導を並行させながら、保育所実習や施設実習にむけての準備を行ってきた。

しかし、「子ども健康学演習」で15コマ「保育実習指導Ⅰ」では15コマ以上の準備を行ってきても、社会人の基礎としての3つの柱が身につかない、実習の事前・事後含めて個別の指導を行う必要があるような事例が起きたり、実習中に実習先に迷惑が掛かるようなことが見られたりした。また、このような状況は、どの養成校でも起きていると考えられるが、実習での学生の具体的な姿が示されているような先行研究は行われていない。

社会人の基礎として提示している3つの柱に関する学生の状況の具体的な事例を挙げる。「①身だしなみを整える」では、スーツを着崩して着用する。ストッキングを履かない。飾りがついたブラウスを着る。靴

やバックを華美なものにする。ピアスやネックレスといったアクセサリー類をつける。目元を強調したメイクをする。等が見られた。実際に、事前訪問では、サンダルで出向く、目元口元に派手なメイクで出向く、ピアスをつけて訪問するなどがあつたり、巡回指導の際にメイクの濃さを指摘されたりすることもあった。また宿泊での施設実習では、ピアスの穴がふさがらないようにと就寝中にピアスを付け、実習開始時にピアスをつけていたことを忘れており、そのまま実習を開始する学生もいた。さらに、実習中の実習着や靴下などが華美であるということもあった。このような事態を受けて、学生と面談をおこなってみると身だしなみを整える重要性やアクセサリー類を付けたまま実習することの危険性や施設で生活する利用者や、子どもへの配慮、安全管理の理解ができていない状況であつた。

「②時間や提出期限を守る」では、普段の講義での着席がぎりぎりに入室する姿が見られたり、課題や書類の提出期限を何度しても守れなかったりした。具体的な事例としては、実習前の準備においては、実習に必要な書類の提出期限を守れない、腸内細菌検査の検体提出期限を守れないなどがあつた。事前訪問の際には、寝坊やスケジュール管理不足による無断の遅刻・欠席や、個人票の写真を貼り忘れる、印鑑の押し忘れ等の提出書類の不備、提出書類の忘れ、上靴や筆記具等の持参物の忘れなどがあつた。実習中においても、保育所での実習では、早番時間での実習で無断の欠席、実習開始時間の確認不足による無断の遅刻の事例は毎年1～2事例ある。また、宿泊での施設実習においても、早朝の実習時間に無断で遅れる、実習開始時間の確認不足の事例があつた。学生と面談を行うと、必要なことをメモしていない、メモをしていても管理ができていない。指示されたことについての理解、確認不足もあつた。また、以上のような学生の多くは手帳を活用していないということもわかつた。いずれもスケジュール管理の仕方がわからない、あるいは、スケジュール管理の不足であつた。

「③報告・連絡・相談・確認をする。」では、「子ども健康学演習」や「保育実習指導Ⅰ」等の実習にかかわる事前事後指導においては、体調不良等のやむを得ない事情での遅刻・欠席については、事前に電話連絡をし、指示を仰ぎ必要に応じて病院受診などの指示をするようにした。その他にも、実習先の確保や事前訪問の連絡、実習中についての実習先でのやりとりについての情報共有、実習中の遅刻・欠席の連絡の徹底、②にかかわるところで提出期限に間に合わないときも連絡をするように指導を行った。しかし、この③の習得が難しい学生が多く、1年次の前期の「子ども健康学演習」では、遅刻・欠席の連絡ができない、わからないことを自分で判断したり、メールやSNSを使用して連絡し、行き違いが起きるなどしたりして、実習先と一緒に実習に行く学生に迷惑をかけることもたびたび見受けられ、このような基本的な内容について身につくまでに時間がかかつた。具体的な事例としては、事前訪問の際に訪問する日の設定や代表者だけの訪問など勝手な判断をする、実習開始、終了日を自己判断で変更するなどがあつた。実習中においては、台風の接近により、早退したことや休園になったことの報告がなされず、実習時間総数が不足したり、体調不良で早退したが、大学の実習指導担当教員に連絡がなく、園への状況報告ができなかったりする事例があつた。また、実習先から独自の誓約書を渡されていたが、大学の実習指導担当教員への報告がなく、誓約書の内容について保護者からの問い合わせに答えられない事例等もあつた。

そのほかにも、巡回指導や実習先との情報共有のなかで、短期大学入学までにできていると考えていたさまざまな問題が指摘された。まず、基本的マナーの点では、挨拶ができない。具体的には、大きな声でできない、会った人全員にできない、朝はしても帰りはできないなどが挙げられた。昼食のお弁当については、コンビニエンスストアで購入したおにぎりを持参し、米飯を持って行かない、弁当箱の中に詰められていない、お箸を使わずフォークやスプーンを使用する、水筒やペットボトルから直接飲むなどが挙げられた。



表1 子ども健康学演習の実施から保育実習Ⅰまでの指導の流れとその変遷

開講期 実施の流れ	実施状況と 改善状況	科目名	概要	詳細
1年次前期	平成23年～	子ども健康学演習	社会人の基礎3つの柱について 社会人のマナー 守秘義務について 1日見学実習事前指導 実習の概要・書類作成・日誌の書き方他 異学年交流(報告会・体験共有)	表3
	令和元年より 講義内容を変更	キャリアデザインⅠ	生活技能の実習(衣・食・住) 九州女子大学家政学部人間生活学科とコラボ授業	表2
	令和2年より 講義内容を変更	文章力をつける	基本的な文章の書き方 実習関連の書類の書き方 日誌の書き方 他	
	令和2年より 開講期を変更	子どもの表現Ⅰ	手遊び・絵本読み パネルシアター・エプロンシアター他 実技の演習・実習	
8月 11月	令和2年より 11月に実施	1日見学実習(保・施) 1日見学実習(幼・小)	観察・参加実習	
1年次後期		保育実習指導Ⅰ	1日見学実習事後指導 保育所実習Ⅰ・施設実習Ⅰ事前指導 日誌のレベル別指導 教材研究 異学年交流(報告会・体験共有) 直前集中講座(実習先との連携)	表4
2月・3月		保育所実習Ⅰ・施設実習Ⅰ		

生活面では、簡単な炊事、洗濯ができない。消毒液が作れない、掃除ができない、簡単な裁縫ができないという事例が挙げられた。具体的な事例としては、食事において、宿泊実習にて、自炊をする必要がある実習先で料理ができず、インスタント食品で実習期間を過ごす。実習先での行事等の活動での簡単な調理の手伝いができないなどがあった。基本的な生活面では、洗濯機の使用方法がわからない。洗濯できる友達に宿泊実習中にずっと助けてもらうということもあった。また、ごみの分別できず、燃えるゴミと瓶・缶が混在して捨てられていた。実習先の職員がゴミを分別しようと開けたところ、ごみの分別ができていないだけでなく、実習中に食べきれなかった食材や食べ物、まだ使用できるタオルやシャンプー類、日誌の余りなどが入っていた。さらに、掃除では、雑巾がけを足で行うなどの事例もあった。

さらに、「保育実習指導Ⅰ」の内容<sup>3)</sup>にもふくまれているが、プライバシー保護と守秘義務について特に気を付けなければならないのが、SNSの利用がある。1日見学実習の事前指導の「子ども健康学演習」、「保育実習指導Ⅰ」のなかでも十分に時間をとり指導を行い、個人情報保護に関する誓約書に署名をおこなっているが、実習にかかわる内容をSNSに挙げる事例が他の学生などからの連絡で明らかになったこともあった。学生と面談してみると、SNSにおいて限定公開であれば大丈夫だろうという認識の甘さがあることがわかった。

以上のような学生の状況を踏まえると、「保育実習Ⅰ」を実施するにあたり、基本的なマナー、生活技能、コミュニケーション能力、倫理観が身につくような内容をまず取り入れることを検討していく必要があると痛感した。

## (2) 令和元年からに新たな設定した他の科目との関連や取り組みと実施状況について

### ① 授業内容の再構築について

以上に挙げた学生の状況を踏まえ、1年生前期の講義内容について検討を行い、指導内容を変更した。まず、キャリア教育科目の見直しを行った。1年次前期開講の「キャリアデザインⅠ」は、一般的な内容の職業観や教育課程講座、情報リテラシーなどを取り扱ってきたが、学生の状況を踏まえ、基本的なマナーを取り入れるなど少しずつの講義内容を見直してきた。令和元年度からは、基本的な生活能力を身につけられるように、本学の家庭科教員を養成する学科と連携し、「衣食住」のテーマに分けて基本的な生活技能の向上を図った(表2)。「衣」では、実習で必要な名札をフェルトで作成し、簡単な縫物ができるようにした。「食」では、米飯のお弁当と、パンを使ったお弁当を作ることににより、簡単なお弁当が作れるようになるとともに、

栄養バランス等を意識できるようにした。「住」では、掃除の基本的な実施方法、消毒液の作り方、洗濯の仕方を実習し、保育現場等で使用されている二槽式洗濯機の使用法も取り扱った。山野ら（2021）によると、短期大学学生を含めた受講生の授業後の平均得点が高くなっており、将来の仕事で必要であり役立つと認識できていることが明らかになった<sup>7)</sup>。また、SNSの使用方法についての演習、弁護士を呼んでのSNSの危険性の講義、マナー講師から身だしなみを整えることや挨拶の重要性などを講義していただき、基本的マナーや基本的生活技能の補完を行った。

次に、同時開講している「子ども健康学演習」（表4）では、「キャリアデザインⅠ」の講義を踏まえながら1日見学実習に向けて、これまでと同様に社会人の基礎となる3つの柱の指導をおこなった。継続の理由としては、矢野ら（2018）において、1日見学実習実施後の学生の変化として「次の実習につながる課題が見つかった」、「その後の学習意欲が高まった」と答えた学生が9割と高く、「保育実習Ⅰ」に向けての意欲を高める効果があることが明らかになったからである<sup>5)</sup>。特に平成30年度からは、学生の状況を踏まえて、一つ一つの柱を丁寧に取り扱い、なぜ身につけないといけないかを明確に理解できるように演習を行ったり、日常的に実施できるようにしたりすることで確実に定着が図れるようにした。

表2 キャリアデザインⅠ（令和元年度）実施内容

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	自校史
3	PROGテスト(基礎能力テスト)
4	SNSに関する講話
5	衣・食・住の各授業に関する準備・諸注意
6	衣①手芸の基礎知識を学ぶ
7	衣②弁当の風呂敷を作る
8	衣③オリジナル名札を作る
9	食①安全で衛生的な食品や器具の取り扱い等の説明
10	食②パンを主食とする弁当を作ろう
11	食③米を主食とする弁当を作ろう
12	住①住居の換気、部屋の掃除の仕方、掃除道具について
13	住②掃除の実習
14	住③洗濯の仕方・畳み方・干し方・乾かし方の説明と実践
15	まとめ 衣食住発表 浴衣の着付け・立食パーティー

例えば、①身だしなみを整えるについては、スーツの着こなしや第一印象の重要性について演習を行い、「子ども健康学演習」の授業日は、スーツを着るようにし、普段からスーツを着る機会を確保し着こなせるようにした。②時間や提出期限を守るについては、授業開始時間に遅れないこと、時間に余裕をもたせるために、5分前に着席完了できるように指導をおこなった。また、スケジュール管理ができるように、入学時に配布する大学のスケジュール帳を活用し、講義中にスケジュールを伝え、スケジュール帳に書くことを徹底した。また、提出物の提出理由や提出物の位置づけを明確に伝えるようにしたうえで、1日見学実習に必要な書類や事前準備のためのレポートの提出期限を守るように取り組むこととした。また、余裕をもって提出できるように早めに出すようにも指導を行った。例えば、事前訪問の準備は、遅くとも事前訪問の2日前までに準備し、前日と事前訪問に行く前に再度確認するなど具体的な指導を行うなど工夫を行った。③報告・連絡・相談・確認については、体調不良等の事情で欠席・遅刻する場合、同様の理由で提出期限に提出物が提出できない場合は、必ず講義開始前に電話連絡を徹底したり、わからないことがある場合には、必ず実習担当教員に直接聞いたり、報告・連絡・相談を徹底するようにし、3つの柱の指導について講義中で丁寧に取

い、なぜ身につける必要があるのか明確に伝え、理解が深まるようにした。

また、実習に必要な書類の指導については、確実に習得できるように一斉指導をやめ、少人数での指導を行った。特に、日誌の指導では、日誌の模写、基本的な書き方を指導したあと、動画を活用し、メモを取り、実際に日誌を書き、解説を行い、個別指導も取り入れ、実践に近い指導ができるように工夫した。実習直前には、2年生の実習の報告会を聞いたり、情報交換ができるようにしたりして、教員には聞けない些細なことなどが聞ける機会を確保した。

表3 子ども健康学演習（令和元年度）実施内容

回	授業内容
1	オリエンテーション 子ども健康学演習の講義内容について 社会人の基礎の3つの柱について
2	社会人のマナー 身だしなみの重要性
3	身だしなみの確認 髪の毛を整え・スーツを着こなす
4	実習基礎講座①
5	実習基礎講座②
6	実習基礎講座③
7	実習先発表 健康診断書・抗体検査・腸内細菌検査
8	①事前訪問 電話掛け
9	②個人票 誓約書
10	③概要の書き方
11	日誌の書き方① 事前訪問の確認
12	日誌の書き方② 施設の日誌の書き方 報告書・原稿・お礼状の書き方
13	最終確認(実習中の対応・諸注意)
14	報告会参加(異学年交流)
15	先輩から保育所施設の説明

備考:8・9・10回目は、3グループに分けて少人数で実施

## ② 「保育実習指導Ⅰ」へのつなげ方について

1年生の前期で、「保育実習Ⅰ」を見据えた基礎的な内容を実施することで、1日見学実習で修得した知識や技術を活用し、学生自身の課題の明確化、後期に向けての意欲の向上につながると考えられる。また、1日見学実習で日誌、報告書、エピソード記録を書くことから、学生の理解度や課題、困りなどがわかり、計画的に活用していくことでより丁寧な指導を行っていくことができる。

表4 保育実習指導Ⅰ（平成30年度）実施内容

回数	授業内容		
1	オリエンテーション(社会人の基礎の3つの柱) 保育実習の意義と目的について 実習までの流れについて		
2			
3	保育所実習の内容と方法について 保育所の役割・保育士の役割について		
4	日誌の書き方についての確認(1日見学実習事後指導) 保育所実習Ⅰで求められる技能と教材の収集について		
5	日誌の書き方について(1日見学実習事後指導)		
	※以下 内容によってはレベル別指導		
	A(高)	B	C(低)
6	実習にかかわる書類について 書類の作成		1日見学実習の日誌修正 (グループワーク)
7	手遊び・絵本読み等の グループ演習	1日見学実習の日誌の修正 (グループワーク)	
8	日誌の書き方(日々の記録以外の部分)		
9	先輩の話:社会人の基礎の3つの柱に関して(異学年交流)		
10	手遊び・絵本読み等の グループ演習	手遊び・絵本読み等の グループ演習	実習にかかわる書類について 書類の作成
11	保育教材の作成	手遊び・絵本読み等の グループ演習	1日見学実習日誌修正 (個別指導) ※できない学生は個別に補講
12	1・2年生 合同報告会(異学年交流)		
13	実習の心構えについて(共通事項の説明)		
14	事前訪問時の諸注意 腸内細菌検査キットの配布、提出方法について		
15	保育教材の作成	保育教材の作成	手遊び・絵本読み等の グループ演習
16	先輩の話②:実習先ごとの情報共有(異学年交流)		
17	【保育実習直前集中講座】 ・発達の流れの確認 ・実習にむけて課題の設定 ・おむつ替え等の実技 ・外部講師の講話(実習先との連携) ・諸注意・心構えなど最終確認 ・実習終了後の流れについて ・1日見学実習報告会		
18			
19			
20			
21			
22			



後期の「保育実習指導Ⅰ」（表4）では、「子ども健康学演習」で行ってきた、社会人の基礎として必要な3つの柱の指導を継続しながら、1日見学実習の事後指導からはじめ、その間に1日見学実習の日誌を添削し、学生の現状を把握し、3段階のレベルに分ける。1日見学実習の事後指導を終えたら、実習に関する具体的な指導を行い、日誌の書き方では、学生の1日見学実習の日誌を活用し、レベル別に少人数指導を実施する。並行して書類の書き方や教材作成を行い、日誌の書き方の習得が早い学生は教材作成をより多く準備できるようにした。日誌の書き方がなかなか習得できない学生は、実習直前にも補講を実施し、不安がないように指導した。そのほかに「子ども健康学演習」と同様に2年生の報告会を聞いたり、実習前の情報交換や保育所保育士、児童養護施設、乳児院、障がい者施設の職員に来校していただき、実習先の特徴や実習内容、不安なことを直接聞いたりする機会を確保した。2年生との情報交換や各種実習施設の職員の方の話は、実習直前に集中講義を設けて実施することで不安解消に努めた。

令和2年度からは、令和元年度の指導内容を拡充し、「文章力をつける」の講義内容をより実践的な内容に見直し、基本的な文章の書き方に加えて、実習に関わる個人票、書類の書き方、お礼状の書き方、日誌の基本的な書き方、漢字など学生がすぐ活用できる内容へと変更し、「子どもの表現Ⅰ」を初年次に開講することで、矢野ら（2019）で示された、実践的な技術を学びたいという学生の意向<sup>5)</sup>を汲み、早くから実践に取り組むことで、学生の学習意欲の高まりと実技への不安や負担が軽減できるようにした。

### Ⅲ. まとめと課題

#### （1）短期大学における初年次教育の内容と1日見学実習及びその事前事後指導の効果

学生の現状を踏まえ、「保育実習Ⅰ」にむけて、新たな取り組みや他の科目との関連やついて述べてきた。そこで、初年次教育の内容と1日見学実習およびその事前事後指導の効果について整理する。

まず、現在の学生の状況を鑑みると既存の実習指導だけでは、指導が行き届かないことは明白である。初年次教育の内容としては、講義内容として位置付けられていない、社会人の基礎として必要な3つの柱（身だしなみを整える、時間を守る、報告・連絡・相談・確認）や、基本的なマナー、生活技能の指導、文章を書く力などの基礎的事項だと考える。このような基礎的事項の補完は、今後もさらに求められてくると思われる。本学でも、平成23年の学科創設より、実践力の育成めざし、創設と同時に、「保育実習Ⅰ」の前段階として、1日見学実習とその事前指導の「子ども健康学演習」を設定し、社会人の基礎として必要な3つの柱や基本的なマナーについて補完している。さらに令和元年度からは、「キャリアデザインⅠ」において生活技能の補完を、令和2年度からは「文章力をつける」「子どもの表現Ⅰ」を1年次前期におき、書類・日誌等の作成に必要な文章力、保育技術の補完を行うことで、保育実習指導Ⅰや保育実習Ⅰの指導内容に不足が出ないように保育実習指導Ⅰまでのカリキュラムの構築をおこなってきた。

つぎに、1日見学実習の効果については、木村ら（2014）が、保育士養成校における体験学習の実施状況について研究している。それによると見学実習を設定している短期大学は41.7%、ボランティア体験を実施している短期大学は、83.3%あり、保育実習履修条件として、1日から数日の自主実習（任意実習）やボランティア活動の実施を義務付けている学校もあることが示されている。また、設定の目的としては、①保育現場を知る、施設全体の業務・活動の流れを知る、②保育現場における子どもの姿を知る、③保育士の業務や役割を知る等が挙げられており、実施前に十分な事前オリエンテーション、実施後のフィードバックを行うことで、観察・体験を理論と結び付け、学習意欲の向上、実習計画作成に生かせる等の学習効果があると示しており、矢野ら（2018）を支持している。また、実習の手配、学生対応、巡回指導と教員負担が大きにもかかわらず、実施している養成校が多いことから実習教育としての有効性があるのではないかと示している<sup>8)</sup>。これらのことから、実習を見据えて、実習先に1日実習に行ったり、見学に行ったり、ボランティアに行くことは、学習意欲を高められることから、取り入れた方がより良いのではないかと考えられる。さらには、1日見学実習で日誌を書くなどの、実際の保育実習に近い形で進めていくことによって、学生の状況把握、各学生のレベル、保育実習Ⅰまでの課題が明確化し、全体への指導の内容の把握やレベル別指導や個別指導への手がかりがつかめる利点がある。



## (2) 保育実習指導Ⅰのコマ数と他の科目の連携

初めにも述べたが松田ら（2016）でも保育士養成における初年次教育に関する先行研究に共通して、カリキュラムの過密さや授業回数15回確保の問題のために、初年次教育の実施において種々の困難があること、保育養成校における初年次教育プログラムの開設に際して独自の工夫が必要と指摘している。

まず、「保育実習指導Ⅰ」のコマ数について検討する。本学においては、平成30年度以前、授業間連携がうまく図れていない部分もあり、「保育実習指導Ⅰ」の中で取り扱う内容が多く、事前指導だけで学生の理解の進捗状況に合わせ、20コマ～30コマ近く実施していた。平成30年度以降は、「子ども健康学演習」の内容の見直しや令和元年度からは「キャリアデザインⅠ」での指導内容が活用でき、保育実習指導Ⅰは、22コマであったが、基礎的内容を復習程度で終わらせることができた。また、令和2年度からは、「子ども健康学演習」「文章力をつける」「子どもの表現Ⅰ」を集中コマで設定し、「子ども健康学演習」や「保育実習指導Ⅰ」で指導していた内容（書類・日誌の書き方・手遊び・絵本読みの演習）を「文章力をつける」「子どもの表現Ⅰ」に位置付けることができ、さらには、1年次前・後期に学生の状況に合わせて柔軟に対応できるようになった。そのため令和2年度は既定のコマ数で納めることができた。

以上のことから、初年次に行われる実習に向けて、どの科目でどの内容を押さえておくかという科目間連携が確実に図られて、実施ができるようであれば、実習の事前事後指導内容を精査することができ、既定のコマ数内で実習指導を終えることができると考えられる。本学の場合は、新たな科目を設定するのではなく、学科独自に開講していた科目や既存の科目の見直しで「保育実習指導Ⅰ」の負担が軽減されたため、科目間連携と内容の見直しは重要だと思われる。

ただ科目間連携と科目の見直しでポイントになるのが、教員同士の連携である。社会人の基礎の3つの柱については、年度初めに教員間で確認するものの、その重要性の認識には教員によりばらつきが出る。特に教員の意識の中で大学入学までにある程度修得できており、柱を提示しておけばできるという意識が払しょくできず、指導の一貫性を保つこと難しいことが多々見られた。そのため各種実習の事前事後指導にかかわる教員については、定期的に集まり、学生の状況を情報共有したり、指導の方向性を確認したりすることを行ったところ、以前よりも共通して取り組めるようになった。また、実習指導にかかわる教員が、「キャリアデザインⅠ」「文章力をつける」「子どもの表現Ⅰ」の講義に入っていくことにより、実施している内容を実習指導に生かし学生の学びを実践につなげることができると考えられる。

## (3) まとめと今後の課題について

今回は、学科創設以来、実施してきた初年次教育、「子ども健康学演習」、「1日見学実習」、「保育実習指導Ⅰ」、「保育実習Ⅰ」の取り組みを学生の状況を整理し、学生の状況を踏まえて変化させてきた取り組みについて検討し考察を行った。

その結果、保育士養成の短期大学においては、初年次教育の内容として、社会人の基礎として必要な3つの柱（身だしなみを整える、時間を守る、報告・連絡・相談・確認）や、基本的なマナー、生活技能の指導、文章を書く力などの基礎的事項を取り入れ、既存の科目の内容を精査することでカリキュラム内に位置付けることができると考えられる。また、1日見学実習を取り入れることで、学生の意欲向上や学生の状況を合わせた保育実習指導ができるという利点があると考えられる。さらに、科目間連携を行うことで保育実習指導の指導内容の負担も軽減できると思われる。また、実習担当者への負担は大きく、実習担当者以外の教員の実習の重要性の理解や協力体制を常にアプローチしていくことは必要不可欠である。

令和元年度の終了時期、令和2年の2～3月からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、新しい取り組みを進めつつも通常授業とは程遠い状況にあったことから学生への効果を図ることは難しい状況にある。しかし今後の課題として、令和元年度の取り組みをもとに学生への効果を調べるために、保育実習Ⅰの評価表の実習指導者からの所見の文章から、実施内容の効果や課題点を分析し、さらに保育士養成における初年次教育について検討を行っていきたい。

#### IV. 引用・参考文献

- 1) 河内晴美、小島玲子、「教育・保育者を目指す大学生の人間関係に関する意識：支援者としての学びを通して」、日本教育心理学会総会発表論文集 57 (0) (2015) 109-113
- 2) 佐藤達全、「大人になれない保育科学生の指導について—保育実習を通じて気づいた問題点と対応—」育英短期大学研究紀要 37 (2020) 61-72
- 3) 一般社団法人全国保育士養成協議会、「保育実習指導のミニマムスタンダード「協働」する保育士養成 Ver.2」 (2018) 中央法規 pp. 13-38 58-68 93-94
- 4) 松田千都、渡邊慶一、「保育者養成校における初年次の学びとしての保育実習指導Ⅰ—カリキュラムの体系に支えられた保育所実習指導—」、京都聖母学院短期大学研究紀要 45 (2016) 54-67
- 5) 矢野洋子、橋口文香、安東綾子、井手裕子、「実践力養成のための実習プログラムの構築—1日見学実習の取り組みを通して—」九州女子大学学術情報センター研究紀要 1 (2018) 93-105
- 6) 矢野洋子、橋口文香、安東綾子、高木富士夫、高口知浩、「実践力育成のための実習プログラムの構築—1日見学実習から次の実習に向けて—」九州女子大学学術情報センター研究紀要 2 (2019) 131-140
- 7) 山野美咲、西田真紀子、糖須海圭子、「短大生の基本的な生活技能向上を目的とした短大・大学コラボレーション授業の実践」九州女子大学学術情報センター研究紀要 4 (2021) 89-96
- 8) 木村志保、津田尚子、小口将典、立花直樹、仲宗根稔、西元直美、「保育士養成における体験学習の実施状況及び教育効果に関する検討」関西福祉科学大学紀要 18 (2014) 88-93

# **First-year Education Initiatives for Practical Training At a Junior College Course of Nursery School Teacher Training -Construction of Curriculums and Cooperation Between Departments and Subjects Based on Students Situations-**

Ayako ANDO, Yoko YANO

Department of Childhood Care and Education, Kyushu Women's Junior College

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

## **Abstract**

The purpose of this study is to examine the contents and implementation methods of the first-year education for practical training at a junior college that trains nursery school teachers. (1) The problems faced by students are sorted out based on the attitude of the students in pre-guidance for one-day visit practical training “Child Health Care Study”, the one-day visit practical training, “Childcare practical training guidance I”, and “Childcare practical training I” that had been conducted in the first year education \* 1. (2) Based on the problems faced by students, the relationship with other subjects and initiatives will be organized for “Childcare practical training I”. (3) The contents of the first-year education at a junior college that trains educators and nursery school teachers, and the measures taken so far are reported with the three purposes of examining the implementation method from the problems.

As a result, based on the problems faced by students, it is necessary to present the basics of working adults, such as grooming their appearance and keeping time, and thoroughly guide them. In addition, existing subject guidance content will be examined, and basic life skills will be trained and introduced. Coordinate the contents of instruction among subjects. By doing so, it is considered that the content of the first-year education can be improved without significantly changing the curriculum. In the future, in order to investigate the effects on students, we would like to analyze the effect and problems of the implementation contents from the statements of the opinion from the practical training instructor on the evaluation sheet of “Childcare practical training I”, and to conduct further examination of the first-year education in the training of nursery school teachers.

**Keyword :** First-year education • Childcare practical training guidance I • Childcare practical training I • Curriculum